資治通鑑 第183卷

【隋紀七】　起柔兆困敦，盡強圉赤奮若五月，凡一年有奇。

●**隋**、突厥突厥、続国訳漢文大成 経子史部 第10巻 **299p**

煬皇帝下大業十二年（丙子，６１６年）

●**春，正月**，朝集使（漢の儀式に、正月元旦の大朝会に諸郡の計吏皆な来る）の至らざる者は二十餘郡，始めて議して使者を分遣し十二道より兵を發し盗賊を討捕せしむ。

●毘陵の通守の**路道德**に詔して十郡の兵數萬人を集め，郡の東南に於いて宮苑を起こさしめ，周圍は十二里，内に十六離宮を為り，大抵東都の西苑之制に仿い，而して奇麗なること之に過ぎる。又た宮を會稽に築かんと欲し，亂に會い，成すを果たさず。

●［上巳の節句］**三月**，上巳（上旬の巳の日の意味だが、五節句の一つ。3月3日。Wikipediaによれば、漢初より両漢を通して行われた行事、『後漢書』礼儀志上には「官民皆な東流の水の上に潔し、洗濯祓除と曰う。宿き垢痰を去りて大潔を為すなり」とあり、官民そろって水辺に出て祓除をする行事），**帝**は群臣と西苑の水上に飲み，學士の**杜寶**に命じて《水飾圖經》を撰し，古の水事七十二を采り，朝散大夫の**黃衮**をして木を以て之を為ら使め，間えるに妓航、酒船を以てし，人物は自ら動くこと生きるが如く，鐘磬箏瑟，能く音曲を成す。**(10-300p)**

●［張金稱の乱］己丑（25-23+1=３日），**張金稱**は平恩（山東省東臨道丘県の西、現・邯鄲市邱県）を陷とし，一朝男女萬餘口を殺す。又た武安（河南省河北道武安県、現・邯鄲市武安市）、鉅鹿（直隷省大名道鉅鹿県、現・邢台市巨鹿県）、清河（現・邢台市清河県）の諸縣を陷とす。**金稱**は諸賊に比して尤も殘暴なり，過ぎる所の民は孑遺（子は単なり、遺は餘なり。単子の遺餘無きなり）無し。

●［煬帝の不安］**夏，四月**，丁巳（53-53+1=１日），大業殿の西院に火あり。**帝**は以て盗起こると為し，驚き走り，西苑に入り，草間に匿れ，火は定まりて乃ち還る。**帝**は八年より以後，夜眠る毎に恆に驚悸（動悸）し，雲う、

「賊有り」

と，數婦人をして搖撫せ令め，乃ち眠るを得る。

●癸亥（59-53+1=７日），歷山飛の別將の**甄翟兒**の衆十萬は太原を寇し，將軍の**潘長文**は敗死す。

●**五月**，丙戌(22-22+1=１日)朔，日之を食する有り，既く。

●［螢火を徵求］(五月閏月か) 壬午（五月閏月なら 18+60-52+1=２７日），**帝**は景華宮に於いて螢火を徵求し，數斛を得，夜出でて山に遊び，之を放ち，光は巖谷に遍し。

●［諫言する蘇威の失脚］**帝**は侍臣に盗賊を問い，左翊衛大將軍の**宇文述**は曰く、

「漸く少なし。」

帝は曰く、

「從來に比して少なきこと幾何ぞ？」

對えて曰く、

「什に一なるに能わず。」

納言の**蘇威**は身を引いて柱に隱れ，**帝**は前に呼びて之に問う，對えて曰く、

「臣の司る所に非ず，多少を委ねられず，但だ漸く近づくを患うる。」

帝は曰く、

「何の謂い也？」

威は曰く、

「他日賊は長白山に據り，今近くは汜水に在り。且つ往日の租賦丁役，今は皆な何くにか在るや！豈に其の人皆な化して盗と為るに非ず乎！比(このごろ)賊を奏するを見るに皆な實を以てせず，遂に支計を失い，時に剪除せざら使む。又た昔雁門に在りて，遼を征するを罷むを許し，今復た征發（続は徴発）す，賊は何に由りてか息まん！」

帝は悦ばず而して罷む。尋ぎて五月五日に屬し，百僚は多く珍玩を饋り，**威**は獨り《尚書》を獻ず。或は之を譖して曰く、

「《尚書》に《五子之歌》有り，**威**の意は甚だ不遜なり。」（威は帝が逸豫盤游して返るを知らざるをもって、將に国を失うこと夏の太康の如きに至らんとすと為すと言うなり）

帝は益々怒る。之れ頃(しばらく)して，**帝**は**威**に問うに高麗を伐つの事を以てし，**威**は**帝**が天下に盗多きを知るを欲し，對えて曰く、

「今茲(いまここ)之役は，願わくは兵を發せざらん，但だ群盗を赦せば，自ら數十萬を得る可し。之を遣わして東征すれば，彼は免罪されるを喜び，爭いて務めて功を立て，高麗を滅ぼす可し。」

帝は懌さず。**威**は出でる。御史大夫の**裴蘊**は奏して曰く、

「此れは大いに不遜なり！天下は何れの處にか許多の賊有らん！」

帝は曰く、

「老革（皮色枯瘁するの形、罵る言葉、老兵）は奸多く，賊を以て我を脅かす！其の口を批(う)たんと欲し，且く復た隱忍せん。」

蘊は**帝**の意を知り，河南（洛州は河南郡。大業二年に都を移し、改めて豫州と為す）の白衣の**張行本**を遣わして奏す、

「**威**は昔高陽に在り（九年に帝に従いて遼東より高陽に還る時をいう）て選を典り，濫りに人に官を授ける。突厥を畏れ怯え，京師に還るを請う。」

帝は按驗せ令め，獄成り，詔を下して**威**の罪狀を數え，除名して民と為す。後月餘にして，復た、

「**威**は突厥と陰に不軌を圖る」

と奏する者有り，(10-301p) 事は**裴蘊**に下して之を推せしむ，**蘊**は**威**を死に處す。**威**は以て自ら明らかにする無く，但だ摧謝し而して已む。**帝**は憫み而して之を釋して，曰く、

「未だ即ち殺すを忍ばず」

遂に其の子孫三世を並せて皆な除名す。

●**秋，七月**，壬戌(58-51+1=８日)，濟の景公の**樊子蓋**は卒す。（帝は樊子蓋が東都を守り玄感を平らぐるの功を以て、爵は濟公に進む。其の功は天下を濟えりと為し、封ずるに嘉名を以てす。この国無し）

【煬帝は江都に逃亡】

●<u>［諫言相次ぐも江都に行く］</u>江都は新たに龍舟を作りて成り，東都に送る。**宇文述**は江都に幸するを勸め，**帝**は之に從う。右候衛大將軍の酒泉（甘肅省安肅道酒泉県に酒泉郡を置く、現・酒泉市粛州区）の**趙才**は諫めて曰く、

「今百姓は疲勞し，府藏は空しく竭き，盗賊は蜂起し，禁令は行われず，願わくは**陛下**は京師に還り，兆庶を安んずるべし。」

帝は大いに怒り，**才**を以て吏に屬し，旬日にして，意は解け，乃ち之を出す。朝臣は皆な行くを欲せず，

帝の意は甚だ堅く，敢えて諫める者無し。建節尉（前巻前年に置く）の**任宗**は上書して極諫し，即日朝堂に於いて之を杖殺す。甲子（60-51+1=１０日），**帝**は江都に幸き，越王の**侗**に命じて光祿大夫の**段達**、太府卿の**元文都**、檢校民部尚書の**韋津**、右武衛將軍の**皇甫天逸**、右司郎の**盧楚**等と留後の事を總べしむ。**津**は，**孝寬**（宇文干城の将）之子也。**帝**は詩を以て宮人に留別して曰く、

「我は江都の好きを夢にみ，遼を征するも亦た偶然なり。」

奉信郎（謁者豪の属官、従九品）の**崔民象**は盜賊の充斥するを以て，建國門（洛都羅城門の正南）に於いて上表して諫める。**帝**は大いに怒り，先ず其の頤を解き，然る後に之を斬る。

●［反対を押して江都に向かう］戊辰（4+60-51+1=１４日），馮翊（郡、北魏は華州を置き、西魏は同州に改め、帝は改めて郡と為す）の**孫華**は舉兵して盜を為す。**虞世基**は盜賊の充斥するを以て，兵を發して洛口倉（大業二年に置く）に屯するを請い，**帝**は曰く、

「卿は是れ書生なり，定めて猶ほ恇怯なり。」

戊辰（4+60-51+1=１４日），車駕は鞏に至る。有司に敕して箕山、公路の二府を倉內に移し，仍って築城せ令め以て不虞に備える。汜水に至り，奉信郎の**王愛仁**は復た上表して西京に還るを請い，**帝**は之を斬り而して行く。梁郡に至り，郡人は車駕を邀えて上書して曰く、

「**陛下**が若し遂に江都に幸すれば，天下は**陛下**之有に非ず！」

又た之を斬る。是の時**李子通**は海陵に據り，**左才相**は淮北を掠め，**杜伏威**は六合（江都に属す県。旧尉氏という。開皇の初め、改めて六合県と為す。江蘇省金陵道六合県、現・南京市六合区）に屯し，衆は各々數萬あり。**帝**は光祿大夫の**陳稜**を遣わして宿衛の精兵八千を將いて之を討たしめ，往往にして克捷す。

●**八月**，乙巳（41-21+1=21），賊帥の**趙萬海**の衆は數十萬，恆山（帝は恆州を改めて恆山郡と為す）より高陽を寇す。

●［宇文述の子の優遇］**冬，十月**，己丑（25-20+1=６日），許恭公の**宇文述**は卒す。初め，**述**の子の**化及**、**智及**は皆な無賴なり。**化及**は**帝**に東宮に事え，**帝**は之を寵暱し，即位に及び，以て太僕少卿と為す。**帝**は榆林に幸し，**化及**、**智及**は禁を冒して突厥と交市す。**帝**は怒り，將に之を斬らんとし，已に衣を解いて辯發し，既に而して之を釋し，**述**に賜わりて奴と為す。**智及**の弟の**士及**は，**主**に尚する之故を以て，常に**智及**を輕んじ，唯だ**化及**は之と親暱す。**述**は卒し，**帝**は復た**化及**を以て右屯衛將軍と為し，**智及**を將作少監と為す。

【李密は巧みに自立へ】

●［李密の逃亡行］**李密**之亡げる也，往きて**郝孝德**に依り，**孝德**は之に禮せず。又た**王薄**に入り，**薄**も亦て之を奇とせざ也。**(10-302p) 密**は困乏し，樹皮を削り而して之を食すに至り，淮陽（帝は陳州を改めて淮陽郡を置く）の村舍に匿れ，姓名を變じ，徒を聚めて教授す。郡縣は疑い而して之を捕り，**密**は亡げ去り，其の妹の夫の雍丘（梁郡に属する県）令の**丘君明**に抵る。**君明**は敢えて捨せず，轉じて**密**を遊俠の**王秀才**の家に寄し，**秀才**は女を以て之を妻あわす。**君明**の從侄の**懷義**は其の事を告げ，**帝**は**懷義**をして自ら敕書を繼し梁郡通守の**楊汪**と相い知り收捕せ令む。**汪**は兵を遣わして**秀才**の宅を圍み，適々**密**が外に出るに值たり，是に由りて免かるるを獲るも，**君明**、**秀才**は皆な死す。

●［獄吏は翟讓を助ける］韋城（東郡に属す、開皇六年に置く）の**翟讓**は東都の法曹為り，事に坐して當に斬られんとす。獄吏の**黃君漢**は其の驍勇を奇として，夜中潛かに**讓**に謂って曰く、

「**翟**法司，天の時人の事，抑々（そもそも）亦た知る可し，豈に能く死を獄中に守らん乎！」

讓は驚喜し叩頭して曰く、
「**讓**は，圏牢之豕なり，死生は唯だ**黃曹主**の命ずる所なり！」
君漢は即ち械を破りて之を出す。**讓**は再拜して曰く、
「**讓**の再生之恩を蒙るは則ち幸なり矣，**黃曹主**を奈何せん！」
因りて泣下る。**君漢**は怒りて曰く、
「本は公を以て大丈夫にして，生民之命を救う可しと為す，故に其の死を顧みずして以て奉脫せり，奈何して反りて兒女子に效いて涕泣して相い謝す乎！君は但だ努力して自ら免かるべし，吾を憂うる勿かれ也！」
讓は遂に瓦崗（東都の界）に亡命して群盜と為り，同郡の**單雄信**は，驍健にして，善く馬槊を用い，少年を聚めて往きて之に從う。離狐（直隸省大名道東明県の東南、現・山東省菏沢市東明県 or 菏沢市牡丹区李村鎮）の**徐世勣**は衛南（河南省河北道滑県の東 60 里、現・安陽市滑県）に家し，年は十七，勇略有り，**讓**に說いて曰く、
「東郡は公と**勣**に於いて皆な鄉里為り，人は多く相い識り，宜しく侵掠すべからず。滎陽（帝は鄭州を改めて滎陽郡とす）、梁郡（宋州を改める）は，汴水の經る所にり，行舟を剽（おびやか）し、商旅を掠め，以て自ら資するに足る。」
讓は之を然りとし，衆を引いて二郡の界に入り，公私の船を掠め，資用豐給し，附く者は益々衆し，徒を聚めること萬餘人に至る。
●［李密は群盜の帥を說く］時に又た外黃（河南省開封道にあり）の**王當仁**、濟陽の**王伯當**、韋城の**周文擧**、雍丘の**李公逸**等有り、皆な衆を擁して盜を為す。**李密**は雍州より亡命し，諸帥の間を往來し，說くに天下を取る之策を以てし，始め皆な信じず。之れ久しく，稍以て然りと為し，相い謂って曰く、
「斯の人は公卿の子弟にして，志氣は是くの若し。今人人は皆な**楊氏**の將に滅せんと雲い，**李氏**は將に興らんとす。吾は聞く**王者**は死せず。斯の人は再三濟るを獲，豈に其の人に非ず乎！」
是に由りて漸く**密**を敬う。
●［李密と翟讓の出会い］**密**は諸帥を察して唯だ**翟讓**が最も強く，乃ち**王伯當**に因りて以て**讓**を見，**讓**の為に畫策し，往きて諸小盜を說き，皆な之を下す。**讓**は悅び，稍く**密**に親近し，之と事を計り，**密**は因りて**讓**を說いて曰く、
「**劉**（劉備）、**項**（項羽）は皆な布衣に起こりて**帝王**と為る。今**主**は上に昏く民は下に怨み，銳兵は遼東に盡き，和親は突厥に絕え，方に乃ち揚、越を巡遊し，東都を委棄す。此れ亦た**劉**、**項**奮起之會也。足下の雄才大略，士馬の精銳を以て，二京を席捲し，暴虐を誅滅すれば，**隋氏**は亡ぼすに足らざる也！」
讓は謝して曰く、
「吾が儕（ともがら）は群盜なり，**(10-303p)** 旦夕生を草間に偷むのみ，君之言う者は，吾の及ぶ所に非ざる也。」
會々**李玄英**という者有り，東都より逃げ來たり，諸賊を經歷し，**李密**を求め訪ねて，云う、
「斯の人は當に**隋家**に代わるべし」。
人は其の故を問い，**玄英**は言う、
「比來民間に謠歌《桃李章》有り、曰く、『**桃李子**，**皇后**揚州を繞（めぐ）り，花園裡に宛轉す。浪語する勿かれ，誰か道わんを許（續は無し）すや！』『**桃李子**』とは，逃亡者の**李氏**之子と謂う也。**皇**と**后**とは，皆な君也。『花園裡に宛轉す』とは，**天子**が揚州に在りて還る日無きを謂う，將に溝壑に轉ずる也。『浪語する莫かれ，誰か道わんを許（續は無し）すや』と者，**密**也。」
既に**密**と遇い，遂に身を委ねて之に事える。前の宋城（梁郡を帶びる、旧睢陽という、開皇十八年名を改める）の尉の

齊郡の**房彦藻**は，自ら其の才を負う，時に用いると為（続は無し）さざるを恨み，**楊玄感**之謀に預る。姓名を變えて亡命し，梁、宋之間に**密**に遇い，遂に之と倶に漢、沔に游び，遍く諸賊に入り，其の豪傑に說く。還る日，從者は數百人あり，仍ほ遊客と為り，**讓**の營に處る。**讓**は**密**が豪傑の歸する所と為るを見，其の計に從わんと欲し，猶豫して未だ決せず。

●［賈雄は翟讓に李密を立てるを勸める］**賈雄**という者有り，陰陽占候を曉り，**讓**の軍師と為り，言は用いざる無し。**密**は深く**雄**に結び，之をして術數に托して以て**讓**に說か使む。**雄**は許諾し，之を懷きて未だ發せず。會々**讓**は**雄**を召し，告げるに**密**の言う所を以てし，其の可否を問い，對えて曰く、

「吉言う可からず。」

又た曰く、

「公は自ら立てども、恐らくは未だ必ずしも成らず，若し斯の人を立てれば，事は濟らざる無し。」

讓は曰く、

「卿の言の如し，蒲山公は當に自ら立つべし，何ぞ來たりて我に從うや？」

對えて曰く、

「事は相い因る有り。來たる所以の者は，將軍の姓は**翟**にして，**翟**と者，澤也，蒲は澤に非ざれば生えず，故に將軍を須つ也。」

讓は之を然りとし，**密**と情好日々に篤し。

●［栄陽攻略］**密**は因りて**讓**を說きて曰く、

「今四海は糜沸（糜は粥、粥の沸くが如し）し，耕耘を得ず，公は士衆多くと雖も，食らうに倉稟無く，唯だ野掠に資り，常に給せざるに苦しむ。若し日を曠しくして久しきを持し，加えるに大敵之に臨むを以てす。必ず渙然（離れ散ずる様）として離散せん。未だ若かず先ず滎陽を取り，兵を休めて穀を館にし，士馬の肥充を待ち，然る後に人と利を爭わんには。」

讓は之に從い，是に於いて金堤關（漢の金堤を以て名付ける、栄陽の界）を破り，滎陽の諸縣を攻め，多く之を下す。

●［張須陀は激戦で李密らに敗れる］滎陽太守の郇王の**慶**（楊慶）は，**弘**（高祖の從祖弟、河間王）之子也，討つ能わず，**帝**は**張須陀**を徙して滎陽通守と為し以て之を討たしむ。庚戌（46-20+1=２７日），**須陀**は兵を引いて**讓**を擊ち，**讓**は向に數々**須陀**の敗る所と為り，其の來たるを聞き，大いに懼れ，將に之を避けんとす。**密**は曰く、

「**須陀**は勇に而して無謀なり，兵は又た驟々勝ち，既に驕り且つ狠る，戰にして擒にす可き也。公は但だ陳を列ねて以て待て，**密**は公の為に破るを保たん」

讓は已むを得ず，兵を勒して將に戰わんとし，**密**は兵千餘人を分けて大海寺の北の林間に伏す。**須陀**は素より**讓**を輕んじ，方に陳し而して前み，**讓**は與に戰い，利あらず，**須陀**は之に乘じ，逐に北げること十餘里。**密**は伏を發して之を掩い，**須陀**の兵は敗れる。**密**は**讓**及び**徐世勣**、**王伯當**と軍を合わせて之を圍み，

（10-304p）**須陀**は圍みを潰して出でる。左右は盡く出でる能わず，**須陀**は馬を躍らせて復た入りて之を救い，來往すること數四，遂に戰死す。部する所の兵は晝夜號哭し，數日止まず，河南の郡縣は之が為に氣を喪う。鷹揚郎將の河東の**賈務本**は**須陀**之副と為り，亦た傷つけられ，餘衆五千餘人を帥いて梁郡に奔り，**務本**は尋いで卒す。詔して光祿大夫の**裴仁基**を以て河南道討捕大使と為し，代わりて其の衆を領せしめ，徙りて虎牢（現・鄭州市滎陽市汜水鎮）に鎮す。

●［李密の統率は厳正緻密］**讓**は乃ち**密**をして牙を建て，別に所部を統べ令め，號して蒲山（薄山×）公の

營とす。**密**は部分すること嚴整にして，凡そ士卒に號令するに，盛夏と雖も，皆な背に霜雪を負うが如し。躬は儉素を服し，得る所の金寶は，悉く麾下に頒賜し，是に由りて人は之が用を為す。麾下の士卒は多く**讓**の士卒の陵辱する所と為り，威約・素有るを以て（?），敢えて報いざる也。**讓**は**密**に謂って曰く、

「今資糧は粗ぼ足り，意は還りて瓦崗に向かわんと欲す，公が若し往かざれば，唯だ公の適する所のみ，**讓**は此より別れん矣。」

讓は輜重を帥いて東に引き，**密**は亦た西に行きて康城に至り，說きて數城を下し，大いに資儲を獲る。**讓**は尋いで悔い，復た兵を引いて**密**に從う。

【林士弘、李淵、竇建徳勢力の自立】

●［林士弘は楚の皇帝を称す］鄱陽（饒州を改めて鄱陽郡）賊帥の**操師乞**は自ら元興王を稱し，建元して始興とし，攻めて豫章郡（洪州を改める、現・九江市湖口県彭澤県等）を陷とし，其の鄉人の**林士弘**を以て大將軍と為す。治書侍御史の**劉子翊**に詔して兵を將いて之を討たしむ。**師乞**は流矢に中たりて死し，**士弘**は代わりて其の衆を統べ，**子翊**と彭蠡湖に戰い，**子翊**は敗死す。**士弘**の兵は大いに振るい，十餘萬人に至る。**十二月**，壬辰（28-19+1=１０日），**士弘**は**皇帝**を自稱し，國號を楚として，建元して太平とす。遂に九江（江州を改名、現・江西省九江市潯陽区）、臨川（撫州を改名、現・江西省撫州市臨川区）、南康（虔州を改名、現・江西省贛州市南康区）、宜春（宜昌×?、現・江西省宜春市袁州区）等の郡を取り，豪傑は爭いて隋の守令を殺し，郡縣を以て之に應じる。其の地は北は九江より，南は番禺（南海郡の治所、現・広東省広州市番禺区）に及び，皆な有つ所と為る。

●［李淵を李世民は救出］詔して右驍衛將軍の唐公の**李淵**を以て太原（并州を改名、現・太原市晉源区）留守と為し，虎賁郎將（帝は官制を改訂して十二衛府、衛毎に護軍四人を置き、譙郡に副弐するを掌る。次ぎに護軍を改めて虎賁郎將と為す、正四品。虎牙郎将六人を置き、これを副とし従四品）の**王威**、虎牙郎將の**高君雅**を以て之が副と為し，兵を將いて**甄翟兒**を討たしめ，**翟兒**と雀鼠谷（山西省冀寧道孝義県にあり、現・呂梁市孝義市）に遇う。**淵**の衆は才（わずか）に數千，賊は**淵**を圍むこと數匝。**李世民**は精兵を將いて之を救い，**淵**を萬衆之中より拔き，會々步兵は至り，合わせて擊ち，大いに之を破る。

●**帝**は骨肉を疏薄し，蔡王の**智積**は每に自ら安ぜず，病むに及びて，醫を呼ばず，臨終に，所親に謂って曰く、

「吾は今日始めて首領を保ちて地に沒するを得るを知る矣！」

●［楊善會は張金稱を翻弄して討伐］**張金稱**、**郝孝德**、**孫宣雅**、**高士達**、**楊公卿**等は河北を寇掠し，郡縣を屠陷す。隋の將帥の敗亡する者は相い繼ぎ，唯だ虎賁中郎將（虎賁郎將の間違い、王辯傳にもあり）の蒲城（陝西省関中道蒲城県、現・渭南市蒲城県）の**王辯**、清河郡丞の華陰の**楊善會**のみは數々功有り，(10-305p) **善會**は前後賊と七百餘戰し，未だ嘗て負敗せず。**帝**は太僕卿の**楊義臣**を遣わして**張金稱**を討たしむ。**金稱**は平恩（武安郡に属す、山東省東臨道丘県の西、現・河北省邯鄲市邱県）の東北に營し，**義臣**は兵を引いて直ちに進みて臨清（清河郡に属す、山東省東臨道臨清県、現・聊城市臨清市）之西に抵り，永濟渠に據りて營と為し，**金稱**の營を去ること四十里，溝を深くし壘を高くし，與に戰わず。**金稱**は日々兵を引いて**義臣**の營の西に至り，**義臣**は兵を勒して甲を擐し，之と戰うを約し，既に而して出でず。日暮れ，**金稱**は營に還り，明くる旦，復た來たり。是くの如く月餘，**義臣**は竟に出でず。**金稱**は以て怯と為し，屢々其の營に逼りて之を詈辱す。**義臣**は乃ち**金稱**に謂って曰く、

「汝明旦來たれば，我は當に必ず戰わん。」

金稱は之を易しとし，復た備えを設けず。**義臣**は精騎二千を簡びて，夜館陶（武陽郡に属す、山東省東臨道館陶

県、現・邯鄲市館陶県）より河を濟り，**金稱**が營を離れるを伺い，即ち入りて其の累重を撃つ。**金稱**は之を聞き，兵を引いて還り，**義臣**は後より之を撃ち，**金稱**は大敗し，左右と清河之東に逃げる。月餘にして，**楊善會**は討ちて之を擒とす。吏は木を市に立て，其の頭を懸け，其の手足を張り，仇家をして之を割食せ令む。未だ死せざる間，歌謳すること輟まず。詔して**善會**を以て清河通守と為す。

●［**竇建德は高士達・張金稱の余衆を合わす**］涿郡の通守の**郭絢**は兵萬餘人を將いて**高士達**を討つ。**士達**は自ら才略は**竇建德**に及ばざるを以て，乃ち**建德**を進めて軍司馬と為し，悉く兵を以て之に授ける。**建德**は**士達**に輜重を守るを請い，自ら精兵七千人を簡びて**絢**を拒み，詐りて、

「**士達**と隙有り而して叛す」

と為し，人を遣わして降を**絢**に請い，

「願わくは前驅と為り，**士達**を撃ちて以て自ら效さん。」

絢は之を信じ，兵を引いて**建德**に隨いて長河（平原郡の県、山東省東臨道徳県、現・徳州市徳城区）に至り，復た備えを設けず。**建德**は之を襲い，數千人を殺虜し，**絢**の首を斬り，**士達**に獻じ，**張金稱**の餘衆は皆な**建德**に歸す。**楊義臣**は勝ちに乗りて平原に至り，高雞泊に入りて之を討たんと欲す。**建德**は**士達**に謂って曰く、

「隋將を歷觀するに，善く兵を用いる者は**義臣**に如くは無し。今**張金稱**を滅し而して來たる，其の鋒は當る可からず。請う兵を引いて之を避け，其をして戰わんと欲するも得ず，坐して歲月を費さ使め，將士は疲倦す。然る後に間に乗りて之を撃ち，乃ち破る可き也。然らざれば，恐らくは公之敵に非ず。」

士達は從わず，**建德**を留めて營を守らしめ，自ら精兵を帥いて**義臣**を逆撃し，戰いて小しく勝ち，因りて酒を縱にして高宴す。**建德**は之を聞いて曰く、

「東海公は未だ敵を破る能(有×)わざるに，遽（にわか）に自ら矜大なり，禍いの至ること久しからず矣！」

後五日にして，**義臣**は大いに**士達**を破り，陳に於いて之を斬り，勝ちに乗りて北げるを逐い，其の營に趣き，營中の守兵は皆な潰える。**建德**は百餘騎と亡げ去り，饒陽（河間郡に属す、直隷省保定道饒陽県、現・衡水市饒陽県）に至り，其の備え無きに乗り，攻めて之を陷とし、兵を収め，三千餘人を得る。**義臣**は既に**士達**を殺し，以て**建德**は憂うるに足らざると為し，引いて去る。**建德**は平原に還り，**士達**の散兵を収め，死者を收葬し，**士達**の為に喪を發し，軍は復た大いに振い，自ら將軍と稱す。是より先，群盜は隋の官及び士族の子弟を得，皆な之を殺し，獨り**建德**は善く之を遇す。是に由りて（10-306p）隋の官は稍く城を以て之に降り，聲勢は日々に盛んにして，勝兵は十餘萬人に至る。

【孤立する皇帝】

●［**虞世基は賊盛んを知らせず、楊義臣を追う**］內史侍郎の**虞世基**は**帝**が賊盜を聞くを惡むを以て，諸將及び郡縣の敗れるを告げ救いを求める者有れば，**世基**は皆な表狀を抑損し，實を以て聞せず，但だ云う、

「鼠竊狗盜は，郡縣は捕逐す，行々當に殄盡すべし，願わくは**陛下**は以て懷に介する（気にかける）勿かれ」

帝は**良**（まこと）に以て然りと為し，或は其の使者を杖し，以て妄言と為し，是に由りて盜賊は海內に遍き，郡縣を陷沒し，**帝**は皆な之を知らざる也。**楊義臣**は河北の賊數十萬を破り降し，狀を列ねて上聞し，**帝**は歎じて曰く、

「我は初め，賊の頓（とみ）に此くの如しを聞かず，**義臣**が賊を降すこと何ぞ多き也！」

世基は對えて曰く、

「小竊多しと雖も，未だ慮りを為すに足らず。**義臣**は之に克ち，兵を擁すること少なからず，久しく閫外（外征軍）に在り，此れ最も宜に非ず。」

帝は曰く、
「卿の言は是也。」
遽に**義臣**を追い，其の兵を放ち散らし，賊は是に由りて復た盛んなり。
●［直言の韋雲起を左遷］治書侍御史の**韋雲起**は劾奏す、
「**世基**及び御史大夫の**裴蘊**は、職は樞要を典り，内外を維持し，四方變を告げれども，為に奏聞せず。賊の數は實に多く，裁減して少なしと言い，**陛下**は既に賊少なしと聞き，兵を發するに多からず，衆寡懸殊し，往きて皆な克たず，故に官軍をして利を失わ使め，賊黨は日々に滋し。請う有司に付して其の罪を結正（新旧唐書は詰正）すべし。」
大理卿の**鄭善果**は奏す、
「**雲起**は名臣を詆訾し，言う所は實ならず，朝政を非毀し，妄りに威權を作す。」
是に由りて**雲起**を左遷して大理司直（官名、大理寺に属す、五品）と為す。
●［煬帝は江都で歓楽、民間の飢饉］**帝**は江都に至り，江、淮の郡官の謁見する者は，專ら禮餉の豐薄を問い，豐なれば則ち丞、守に超遷し，薄ければ則ち率ね停解に從う。江都の郡丞の**王世充**は銅鏡屏風を獻じ，通守に遷る。歷陽（和州を改める）の郡丞の**趙元楷**は異味を獻じ，江都の郡丞（大郡の丞）に遷る。是に由りて郡縣は競いて刻剝を務め，以て貢獻に充てる。民は外に盜賊の掠める所と為り，内は郡縣の賦する所と為り，生計は遺る無し。之に加えるに饑饉にて食無く，民は始めて樹の皮葉を采り，或は稿(わら)を搗(つ)きて末（粉末）と為し，或は土を煮而して之を食し，諸物は皆な盡き，乃ち自ら相い食う。而るに官食は猶ほ充牣し，吏は皆な法を畏れ，敢えて振救する莫し。**王世充**は**密**に**帝**の為に江淮の民間の美女を簡閲して之を獻じ，是に由りて益々寵有り。
●［高開道は燕に立つ］河間（瀛洲を改める）の賊帥の**格謙**は衆十餘萬を擁し，豆子（続は豆子［鹵亢］）に據り，燕王を自稱し，**帝**は**王世充**に命じて兵を將いて討ちて之を斬らしむ。**謙**の將の勃海（滄州を改める）の**高開道**は其の餘衆を收め，燕の地を寇掠し，軍勢は復た振う。
●［羅藝は幽州總管を自稱］初め，**帝**は高麗を伐たんと謀り，器械資儲は，皆な涿郡に積む。涿郡は人物殷阜にして，屯兵數萬あり。又た，臨朔宮は珍寶多し，諸賊は競いて來たりて侵掠す。留守官の虎賁郎將の**趙什住**等は拒む能わず，(10-307p) 唯だ虎賁郎將の雲陽（京兆郡に属す）の**羅藝**は獨り出で戰い，前後賊を破ること甚だ衆く，威名は日々重く，**什住**等は陰に之を忌む。**藝**は將に亂を作さんとし，先ず宣言し以て其の衆を激して曰く、
「吾が輩は賊を討ち數々功有り，城中の倉庫は山積し，制は留守之官に在り，而るに肯えて散施して以て貧乏を濟う莫し，將(は)たまた何を以て將士に勸めんや！」
衆は皆な憤怨す。軍は還り，郡丞は城を出でて**藝**に候し，**藝**は因りて之を執り，兵を陳し而して入る。**什住**等は懼れ，皆な來たりて命を聽き，乃ち庫物を發して以て戰士に賜い，倉廩を開いて以て貧乏を賑し，境内は鹹な悅ぶ。己に同じせざる者の勃海太守の**唐禕**等數人を殺し，威は燕の地に振い，柳城、懷遠は並せて之に歸す。**藝**は柳城（遼西にあり）太守の**楊林甫**を黜け，郡を改めて營州と為し，襄平太守の**鄧暠**を以て總管と為し，**藝**は幽州總管を自稱す。
突厥［突厥と李淵の対決］突厥は數々北邊（北連×）を寇す。晉陽（太原）留守の**李淵**に詔して太原道の兵を帥いて馬邑（朔州を改める）太守の**王仁恭**と之を擊たしむ。時に突厥は方に強く，兩軍の衆は五千に滿たず，**仁恭**は之を患う。**淵**は善く騎射する者二千人を選び，之をして飲食捨止すること一に突厥の如くなら使め，或は突厥と遇えば，則ち便を伺いて之を擊たしめ，前後屢々捷ち，突厥は頗る之を憚る（未だ深く憚ら

ずの意味)。

恭皇帝上煬皇帝下義寧元年（丁丑，６１７年）

（恭皇帝は諱侑、代王に封じられる。元徳太子昭の子、煬帝の孫）（この年十一月李淵は長安に克ちて侑を即位させ、義寧に改元）

【各地に王自立、突厥連携も】

●［杜伏威の上募は親衛隊］**春，正月**，右御衛將軍の**陳稜**は**杜伏威**を討ち，**伏威**は衆を帥いて之を拒む。**稜**は壁を閉じて戰わず，**伏威**は遺わすに婦人之服を以てし，之に「**陳姥**」と謂い、**稜**は怒り，出でて戰い，**伏威**は奮いて出で，大いに之を破り，**稜**は僅に身を以て免る。**伏威**は勝ちに乘りて高郵（江蘇省淮陽道高郵県、現・揚州市高郵市）を破り，兵を引いて歷陽に據り，總管を自稱し，**輔公祏**を以て長史と為し，諸將を分遣して屬縣を徇えしめ，至る所輒ち下り，江淮の間の小盜は爭いて之に附く。**伏威**は常に敢死（取死×）之士五千人を選びて，之を「上募」と謂い，寵遇は甚だ厚く，攻戰有れば，輒ち上募をして先ず之を擊た令め，戰い罷めば閲視し，傷の背に在る者は即ち之を殺す。其の退き而して擊たれるを以ての故也。獲る所の資財は，皆な以て軍士に賞し、戰死する者有れば，妻妾を以て徇葬せしむ。故に人は自ら為に戰い，向かう所敵無し。

●［竇建德は長樂王と自稱］丙辰（52-48+1=５日），**竇建德**は壇を樂壽（河間郡に属す。古の樂城県、仁壽の初め名を更む。直隷省津海道献県の東南、現・滄州市献県）に為り，長樂王と自稱し，百官を置き，改元して丁丑とす。

●［徐圓朗は東平に自立］辛巳（7+60-48+1=２０日），魯郡（煬帝は兗州を改めて東平郡と為し、沂州を琅邪郡と為す）の賊帥の**徐圓朗**は東平を攻め陷とし，兵を分けて地を略し，琅邪より以西，北は東平に至るまで，**（10-308p）**盡く之を有ち，勝兵は二萬餘人なり。

●［王世充は盧明月を討伐］**盧明月**は河南を轉掠し，淮北に至る，衆は四十萬と號し，無上王と自稱す。**帝**は江都の通守の**王世充**に命じて之を討たしむ。**世充**は與に南陽に戰い，大いに之を破り，**明月**を斬り，餘衆は皆な散ず。

●突厥［梁師都は朔方に自立、突厥連携］**二月**，壬午（18-18+1=１日），朔方（夏州を改める）の鷹揚郎將の**梁師都**は郡丞の**唐世宗**を殺し，郡に據り，大丞相を自稱し，北に突厥に連なる。

●突厥［劉武周は馬邑に自立し突厥に付く］馬邑（朔州を改める）太守の**王仁恭**は，多く貨賂を受け，振施する能わず。郡人の**劉武周**は，驍勇にして任俠を喜び，鷹揚府の校尉（大都督を改める）と為る。**仁恭**は其の土豪なるを以て，甚だ之を親厚し，親兵を帥いて閤下に屯せ令む。**武周**は**仁恭**の侍兒と私通し，事の洩れるを恐れ，亂を作さんと謀り，先ず宣言して曰く、

「今百姓は饑饉し，殣屍は道に滿ち，王府君は倉を閉じて賑恤せず，豈に民の父母と為る之意ならん乎！」

衆は皆な憤怒す。**武周**は疾と稱して家に臥し，豪傑は來たりて候問すれば，**武周**は牛を椎して酒を縱にし，因りて大言して曰く、

「壯士は豈に能く坐して溝壑（溝や谷間。貧困で路傍で倒れ死ぬ）を待たんや！今倉粟は爛積し，誰か能く我と共に之を取らんや？」

豪傑は皆な許諾す。己丑（25-18+1=８日），**仁恭**は聽事に坐し，**武周**は謁を上り，其の黨の**張萬歲**等は隨いて入り，階に升り，**仁恭**を斬り，其の首を持ちて出で徇える，郡中は敢えて動く者無し。是に於いて倉を開き以て饑民を賑わす，檄を境內の屬城に馳せ，皆な之を下し，兵を收めて萬餘人を得る。**武周**は太守を自稱し，遣使して突厥に附く。

【李密は東都に魏を立てる】

●［李密・翟讓の本格挙兵］**李密**は**翟讓**に說いて曰く、

「今東都は空虛にして，兵は素練ならず。越王は沖幼にして，留守の諸官の政令は壹ならず，士民は心を離す。**段達**、**元文都**は，暗く而して謀無し。僕を以て之を料れば，彼は將軍之敵に非ず。若し將軍が能く僕の計を用いれば，天下は指麾し而して定まる可き也。」

乃ち其の黨の**裴叔方**を遣わして東都の虛實を覘わしめ，留守の官司は之を覺り，始めて守禦之備えを為し，且つ表を馳せて江都に告ぐ。**密**は**讓**に謂って曰く、

「事勢は此くの如し，發せざる可からず。兵法は曰く、『先んずれば則ち己に制せられ，後れれば則ち人に制せらる。』今百姓は饑饉し，洛口の倉は多く粟を積む，都を去ること百里有餘なり，將軍が若し親ら大衆を帥いて，輕行して掩襲すれば，彼は遠く未だ救う能わず，又た先ず豫備無し，之を取るは遺ちたるを拾うが如き耳。其の聞知する比おい，吾は已に之を獲ん，粟を發して以て窮乏を賑わせば，遠近は孰か歸附せざらんや！百萬之衆，一朝にして集まる可し，威を枕として銳を養い，逸を以て勞を待つ。縦(たと)え彼能く來たれば，吾は備え有り矣。然る後に檄して四方を召し，賢豪を引き而して計策を資(たす)け，驍悍を選び而して兵柄を授け，亡隋之社稷を除き，將軍之政令を布けば，豈に盛んならず哉！」

讓は曰く、

「此れ英雄之略なり，僕の堪える所に非ず。惟だ君之命は，盡力して事に從わん，請う君先ず發すべし，僕は後殿と為らん。」

庚寅（26-18+1=９日），**密**、**讓**は精兵七千人を將いて陽城（河南郡に属す）に出でて北し，方山（河南の陸渾県に有り、洛陽南西）を逾え（10-309p），羅口（鞏県に長羅川有り、長羅川の口か、現・鄭州市鞏義市）より興浴倉（鞏県に在り）を襲い，之を破る。倉を開きて民の所取る所を恣(ほしいまま)にし，老弱は襁負して，道路に相い屬く。

●［祖君彦は李密に付く］朝散大夫の**時德睿**は尉氏（潁川郡に属す、河南省開封道尉氏県、現・開封市尉氏県）を以て**密**に應じ，前宿城（東平郡の県、山東省東臨道東平県、現・泰安市東平県）令の**祖君彦**は昌平（涿軍に属す、京兆昌平県の西17 里、現・北京市昌平区）より往きて之に歸す。**君彦**は，**珽**之子也，博學強記にして，文辭は贍敏（十分で早い）なり，海內に著名なり，吏部侍郎の**薛道衡**は嘗て之を**高祖**に薦め，**高祖**は曰く、

「是れ**斛律明月**(斛律光を歌殺すること171巻陳の高宗太建四年にあり)を歌殺する人の兒邪？**朕**は此の輩を須(もち)いず！」

煬帝は即位し，尤も其の名を疾み，常調に依り東平の書佐（州郡に皆有り、祭酒従事の上に在り、正九品に視う、之を流內視品という）に選び，宿城令を檢校（官未だ真と為るを得ざるなり）す。**君彦**は自ら其の才を負み，常に鬱鬱として亂を思う。**密**は素より其の名を聞き，之を得て大いに喜び，引きて上客と為し，軍中の書檄，悉（続は一）く以て之に委ねる。

●［李密は東都軍を撃破］越王の**侗**は虎賁郎將の**劉長恭**、光祿少卿の**房崱**を遣わして步騎二萬五千を帥いて**密**を討たしむ。時に東都の人は皆な**密**を以て、

「饑賊は米を盜み，烏合にして破り易し」

と為し，爭いて來たりて應募し，國子三館（隋は國子・大学・四門を以て三館と為す）學士及び貴勝親戚は皆な來たりて從軍し，器械修整し，衣服は鮮華なり，旌旗鉦鼓は甚だ盛んなり。**長恭**等は其の前に當たり，河南討捕使の**裴仁基**等をして所部の兵を將いて汜水より西に入り以て其の後を掩わ使め，十一日に倉城の南に會すを約し，**密**、**讓**は**眞**(つぶさ)に其の計を知る。東都の兵は先ず至り，士卒は未だ朝食せず，**長恭**等は之を驅りて洛水を渡り，石子河（水經注に洞水は南溪の石泉に出る。世又之を石泉水と名付ける。鞏東の坎欿聚の西を過ぎて北して洛水に入ると）の西に陳し，南北十餘里。**密**、**讓**は驍雄を選び，分けて十隊と為し，四隊をして横嶺の下に

伏せて以て**仁基**を待た令め，六隊を以て石子河の東に陳す。**長恭**等は**密**の兵の少なきを見，之を輕んじる。**讓**は先ず接戰し，利あらず，**密**は麾下を帥いて之を横ざまに衝く。隋兵は饑え疲れ，遂に大敗し，**長恭**等は衣を解いて潛竄して免かるるを得，奔りて東都に還り，士卒の死者は什に五六なり。越王の**侗**は**長恭**等の罪を釋し，之を慰撫す。**密**、**讓**は盡く其の輜重器甲を収め，威聲は大いに振う。

●［李密は魏公に即位し、河南を席巻］**讓**は是に於いて**密**を推して主（王×）と為し，**密**に號を上（たてまつ）りて魏公と為す。庚子（36-18+1=１９日），壇場を設け，即位し，元年を稱し，大赦す。其の文書の行下し，行軍元帥府を稱す。其の魏公府には三司、六衛を置き，元帥府には長史以下の官屬を置く。**翟讓**を拜して上柱國、司徒、東郡公と為し，亦た長史以下の官を置き，元帥府之半ばを減ず。**單雄信**を以て左武候大將軍と為し，**徐世勣**を右武候大將軍とし，各々所部を領さしむ。**房彥藻**を元帥左長史と為し，東郡の**邴元真**を右長史と為し，**楊德方**を左司馬と為し，**鄭德韜**を右司馬と為し，**祖君彥**を記室と為し，其の餘の封拜は各々差有り。是に於いて趙、魏以南，江、淮以北は，群盜は響應せざるは莫く，**孟讓**、**郝孝德**、**王德仁**及び濟陰の**房獻伯**、上谷の**王君廓**、長平（旧建州。開皇の初め改めて澤州と為す）の**李士才**、淮陽の**魏六兒**、**李德謙**、譙郡（北魏は南兗州を置く。北周は亳州と改め、煬帝は譙郡と為す）の**張遷**、（10-310p）魏郡の**李文相**、譙郡の**黑社**、**白社**、濟北（濟州を改めて濟北郡とす）の**張青特**、上洛（商州を改める）の**周北洮**、**胡驢賊**等は皆な**密**に歸す。**密**は悉く官爵に拜し，各々其の衆を領（鄰×）せ使め，百營簿を置き以て之を領す。道路は降る者絕えざること流れるが如く，衆は數十萬に至る。乃ち其の護軍の**田茂**に命じて洛口城を廣め築かしめ、方四十里而して之に居り，**密**は**房彥藻**を遣わして兵を將いて東に地を略さしめ，安陸（安州を改める）、汝南（北魏は豫州を置く。帝は洛州を改めて豫州を置き、さらに溱州と為し、又蔡州とし、汝南郡とす）、淮安（北魏の東荊州、西魏の淮州、開皇五年顯州、さらに淮安郡）、濟陽（濟陰郡の県、山東省濟寧道曹県の西南五十里、道定陶県の西北四里、現・菏沢市定陶区）を取り，河南の郡縣は多く**密**に陷とさる。

【突厥支援で劉武周・梁師都・郭子和は皇帝即位】

●突厥［劉武周は突厥の支援で皇帝即位］雁門郡丞の河東の**陳孝意**は虎賁郎將の**王智辯**と共に**劉武周**を討ち，其の桑干鎮（山西省雁門道朔県の界、朔州市から東に北京方面に流れる永定河のほとり）を圍む。壬寅（38-18+1=２１日），**武周**は突厥と兵を合わせて**智辯**を擊ち，之を殺す。**孝意**は奔りて雁門に還る。**三月**，丁卯（3+60-47+1=１７日），**武周**は襲いて樓煩郡を破り，進みて汾陽宮を取り，隋の宮人を獲り，以て突厥の**始畢可汗**に賂す。**始畢**は馬を以て之に報い，兵勢は益々振い，又た攻めて定襄（雲州を改める、山西省雁門道忻県、現・忻州市）を陷（おと）す。突厥は**武周**を立てて**定楊可汗**と為し，遣るに狼頭纛（突厥は本は狼種、牙門狼頭纛を建てる。本を忘れざるを示す）を以てす。**武周**は**皇帝**に即位し，妻の**沮氏**を建てて**皇后**と為し，改元して天興とす。衛士の**楊伏念**を以て尚書左僕射と為し，妹婿の同縣の**苑君璋**を内史令と為す。**武周**は兵を引いて雁門を圍み，**陳孝意**は力を悉くして拒み守り，間に乘りて出でて**武周**を擊ち，屢々之を破る。既に而して外に救援無く，間使を遣わして江都に詣らしむも，皆な報ぜられず。**孝意**は誓うに必死を以てす。旦暮詔敕庫に向かいて俯伏して流涕し，左右を悲動す。城を圍むこと百餘日，食盡き，校尉の**張倫**は**孝意**を殺し以て降る。

●突厥［梁師都も突厥支援で皇帝即位］**梁師都**は略ぼ雕陰（郡、西魏は綏州を置く。大業の初め上郡と為し、尋ぎて改めて雕陰郡と為す）、弘化（慶州を改めて弘化郡とす）、延安等の郡を定め，遂に**皇帝**に即位し，國號を梁とし，改元して永隆とす。**始畢**は遣わすに狼頭纛を以てし，號して**大度毘伽可汗**と為す。**師都**は乃ち突厥を引いて河南之地に居らしめ，攻めて鹽川郡（西魏は西安州を置く。後鹽州、煬帝は鹽川郡）を破る。

●突厥［郭子和も突厥連携で皇帝即位］左翊衛の蒲城の**郭子和**（左翊府に属する衛士）は事に坐して榆林に徙

る。會々郡中は大いに饑え，**子和**は潜に敢死の士十八人と結びて郡門を攻め，郡丞の**王才**を執り，數めるに百姓を恤せざるを以て，之を斬り，倉を開きて賑施す。**永樂王**を自稱し，改元して丑平（旧唐書梁師都傳には正平）とす。其の父を尊びて太公と為し，其の弟の**子政**を以て尚書令と為し，**子端**、**子升**を左右僕射と為す。二千餘騎有り，南に**梁師都**に連なり，北に突厥に附き，各々子を遣わして質と為し以て自ら固める。**始畢**は**劉武周**を以て**定楊天子**と為す，**梁師都**を**解事天子**と為し，**子和**を**平楊天子**と為す。**子和**は固辭して（10-311p）敢えて當らず，乃ち更めて以て屋利設と為す。

【薛舉と李密の勢力充実】

●［薛舉は隴西にて自立］汾陰（河東郡に属す、煬帝は蘭州を改めて金城郡の僑寓と為す）の**薛舉**は，金城(現・甘粛省蘭州市西固区)に僑居し，驍勇絶倫なり，家貲は巨萬にして，豪傑に交結し，西邊に雄なり，金城府の校尉と為る。時に隴右は盗起き，金城令の**郝瑗**は募兵して數千人を得，**舉**をして將い而して之を討た使む。**夏，四月**，癸未（19-17+1=３日），方に甲を授け，饗士に置酒す。**舉**は其の子の**仁果**及び同黨の十三人と，座に於いて**瑗**を劫して兵を發し、郡縣の官を囚り，倉を開いて賑施す。西秦霸王を自稱し，改元して秦興とす。**仁果**を以て齊公と為し，少子の**仁越**を晉公と為し，群盗を招集し，官の牧馬を掠める。賊帥の**宗羅睺**は衆を帥いて之に歸し，以て義興公と為す。將軍の**皇甫綰**は兵一萬を將いて枹罕に屯し，**舉**は精鋭二千人を選びて之を襲い，遂に枹罕（河州を改める、現・臨夏回族自治区臨夏市枹罕鎮）に克つ。岷山（蘭山道岷県、宕昌・倶城、現・隴南市宕昌県）の羌酋の**鐘利俗**は衆二萬を擁して之に歸し，**舉**の兵は大いに振う。更めて**仁果**を以て齊王と為し，東道行軍元帥を領せしめ，**仁越**を晉王と為し，河州刺史を兼ね，**羅睺**を興王と為し，以て**仁果**に副とす。兵を分けて地を略し，西平（鄯州を改める、現・青海省西寧市城中区）、澆河（北周の武帝は吐谷渾を追いて廓州を置く、煬帝は澆河郡とす、現・青海省海東市化隆回族自治県）二郡を取る。未だ幾くもなくして，盡く隴西之地を有ち，衆は十三萬に至る。

●［李密支配の拡大］**李密**は**孟讓**を以て總管、齊郡公と為し，己丑（25-17+1=９日）夜，**讓**は歩騎二千を帥いて東都の外郭に入り，豐都の市を燒掠し，曉に比び而して去る。是に於いて東京の居民は悉く遷りて宮城に入り，台省府寺は皆な滿つ。鞏縣の**長柴孝和**、監察御史の**鄭頠**は城を以て**密**に降り，**密**は**孝和**を以て護軍と為し，**頠**を右長史と為す。

●［裴仁基は李密に降る］**裴仁基**は毎に賊を破り，軍資を得，悉く以て士卒に賞せんとし，監軍御史の**蕭懷靜**は許さず，士卒は之を怨む。**懷靜**は又た屢々**仁基**の長短を求め，之を劾奏す。倉城之戰いに，**仁基**は期を失いて至らず，**劉長恭**等の敗れるを聞き，懼れて敢えて進まず，百花谷（汜水の西、鞏県の東南）に屯し，壘を固めて自ら守り，又た罪を朝に獲るを恐（鞏×）れる。**李密**は其の狼狽を知り，人をして之を說か使め，啖（続は啗）わすに厚利を以てし。**賈務本**（栄陽の戰いに活躍）之子の**閏甫**は軍中に在り，**仁基**に**密**に降るを勸め，**仁基**は曰く、

「**蕭御史**を如何せん？」

閏甫は曰く、

「**蕭君**は棲上の雞の如し，若し機變を知らざれば，明公の一刀在る耳。」

仁基は之に從い，**閏甫**を遣わして密に詣りて降を請う。**密**は大いに喜び，**閏甫**を以て元帥府の司兵參軍と為し，直記室の事を兼ね，之をして覆命せ使め，**仁基**に書を遺り，之を慰納し，**仁基**は還りて虎牢に屯す。**蕭懷靜**は密に其の事を表し，**仁基**は之を知り，遂に**懷靜**を殺し，其の衆を帥いて虎牢を以て**密**に降る。**密**は**仁基**を以て上柱國、河東公と為す。**仁基**の子の**行儼**は，驍勇にして善戰し，**密**も亦た以て上柱國、絳郡

公と為す。

●［秦叔寶・程咬金は李密に降る］**密**は**秦叔寶**及び東阿（濟北郡に属す、現・。山東省聊城市東阿県）の**程咬金**（続は齩金）を得，皆な用いて驃騎（開皇に官制、煬帝は改めて鷹揚郎將とす）と為す。軍中の尤も驍勇なる者八千人を選び，分けて四驃騎に隸し（10-311p）以て自衛し，號して內軍と曰い，常に曰く、

「此の八千人は百萬に當たるに足る。」

咬金は後に名を**知節**に更める。**羅士信**、**趙仁基**は皆な衆を帥いて**密**に歸し，**密**は署して總管と為し，各々をして所部を統べ使む。

●［李密は東都に迫る］癸巳（29-17+1=）１３日，**密**は**裴仁基**、**孟讓**を遣わして二萬餘人を帥いて回洛（新唐志に孟州河陽に四洛の故城あり。この地は名をエルは 158 巻梁武帝大同九年にあり）の東倉を襲わしめ，之を破る。遂に天津橋（煬帝は宇文愷をしてい東都を営造せしむ。洛水は都を貫き、河漢の像有り。因りてその橋を天津橋という）を焼き，兵を縦ちて大掠す。東都は兵を出して之を擊ち，**仁基**等は敗走し，密は自ら衆を帥いて回洛倉に屯す。東都の兵は尚ほ二十餘萬人あり，城に乘りて柝を擊ち，晝夜甲を解かず。**密**は偃師（河南郡に属す県、都城の東六十里、現・洛陽市孟津県）、金墉（晋の洛陽城の西北角にあり。隋は東都城を営み、故都を去ること 18 里）を攻め，皆な克たず。乙未（31-17+1=１５日），洛口に還る。東都城內の糧は乏しく，而るに布帛は山積し，絹を以て汲綆（つるべ縄）と為し，布を然やして以て爨（かし）ぐに至る。越王の**侗**は人をして回洛倉の米を運びて城に入ら使め，兵五千を遣わして豐都の市に屯し，五千は上春門に屯し，五千は屯北邙山に屯し，九營を為し，首尾相い應じ，以て密に備える。丁酉（33-17+1=１７日），**房獻伯**は汝陰（潁州を改める）を陷し，淮陽太守の**趙陁**は郡を舉げて**密**に降る。

●［李密は煬帝の十罪を数める］己亥（35-17+1=１９日），**密**は衆三萬を帥いて復た回洛倉に據り，大いに營塹を修め以て東都に逼る。**段達**等は兵七萬を出して之を拒む。辛丑（37-17+1=２１日），倉北に戰い，隋兵は敗走す。丁未（43-17+1-２７日），**密**は其の幕府をして檄を郡縣に使め，**煬帝**の十罪を數め，且つ曰く、

「南山之竹を罄（つ）くして，罪を書くとも窮まり無し。東海之波を決するとも，惡を流して盡き難し。」

祖君彥之辭也。

【隋の政治崩壊】

●［元善達の東都危機報告を無視］趙王の**侗**は太常丞の**元善達**を遣わして賊中を間行し，江都に詣りて奏して稱す、

「**李密**は衆百萬有り，圍みて東都に逼り，洛口倉に據り，城內食無し。若し**陛下**が速に還れば，烏合は必ず散ぜん。然らざる者は，東都は決沒せん。」

因りて歔欷嗚咽し，**帝**は之が為に容を改める。**虞世基**は進みて曰く、

「越王は年少く，此の輩は之を誑かす。若し言う所の如きならば，**善達**は何に緣りてか來たり至らん！」

帝は乃ち勃然として怒りて曰く、

「**善達**は小人なり，敢えて我を廷辱す！」

因りて賊中を經て東陽（婺州の東陽郡を指す）に向いて運を催（うなが）さ使む，**善達**は遂に群盜の殺す所と為る。是の後人人は口を杜（と）じ，敢えて賊を以て聞する莫し。

●［虞世基と封德彝は隋の政を崩壊させる］**世基**の容貌は沉審にして，言多く意に合い，特に**帝**の親愛する所と為り，朝臣は與に比を為す無し。親黨は之に憑り，官を鬻（ひさ）ぎ獄を賣り，賄賂は公行し，其の門は市

の如し。是に由りて朝野は共に之を疾怨す。内史舎人の**封徳彝**は**世基**に托附し，**世基**の吏務を閒せざるを以て，密に指畫を為し，詔命を宣行し，**帝**の意に諂順す。群臣の表疏の旨に忤う者は，皆な屏け而して奏さず。獄を鞫し法を用いるに，峻文深詆多く，論功行賞は，則ち抑削して薄きに就く。故に**世基**之寵は日々に隆く而して隋の政は益々壊れるは，皆な徳彝の為す所也。

【太原に李世民は策謀】

●［李淵に四男あり］初め，唐公の**李淵**は神武の肅公の**寶毅**に娶り，四男を生み，**建成**、**世民**、**玄霸**、**元吉**なり。一女あり，**(10-313p) 太子**の千牛備身の臨汾（本の平陽、開皇の初めに改名）の**柴紹**に適う。（隋志に東宮の左右内率府に千牛備身八人有り。千牛刀を執るを掌る。千牛を持って刀に名付けるは、其の千牛を解けども芒刀鈍ざるを取る）

●［李世民は聰明勇決］**世民**は聰明にして勇決なり，識量は人を過ぎ，隋室の方に亂れるを見，陰安天下を安んずる之志有り，身を傾けて士に下り，散財して客を結び，鹹な其の歡心を得る。**世民**は右驍衛將軍の**長孫晟**之女を娶る。右勳衛（隋の開皇に親勲武三衛を置く。大業の初めに改めて親勲武の三侍とす）の**長孫順德**（開皇中に勳衛と為る）は，**晟**之族弟也，右勳侍の池陽（陝西省関中道涇陽県の北、現・咸陽市涇陽県）の**劉弘基**と，皆な遼東之役に避け，亡命して晉陽に在り，**淵**に依り，**世民**と善し。左親衛の**竇琮**は，**熾**（隋初の三公）之孫也，亦た亡命して太原に在り，素より**世民**と隙有り，毎に以て自ら疑う。**世民**は意を加えて之を待ち，臥内に出入し，**琮**の意は乃ち安ず。

●［晉陽の劉文靜は李世民に惚れ込む］晉陽宮監の猗氏（河東郡の県、山西省河東道猗氏県、現・運城市臨猗県）の**裴寂**，晉陽令の武功（京兆郡の県、陝西省関中道武功県、現・咸陽市武功県武功鎮）の**劉文靜**は，相い與に同宿し，城上の烽火を見，**寂**は歎じて曰く、

「貧賤は此くの如し，復た亂離に逢う，將に何を以てか自ら存せんや！」

文靜は笑いて曰く、

「時事は知る可し，吾二人相い得れば，何ぞ貧賤を憂えん！」

文靜は**李世民**を見而して之を異とし，深く自ら結納し，**寂**に謂って曰く、

「此れ非常の人なり，豁達なること**漢高**に類し，神武なること**魏祖**に同じ，年少きと雖も，命世の才也。」

寂は初め未だ之を然りとせず。

●［劉文靜は李世民に決起を促す］**文靜**は**李密**と昏を連なるに坐して，太原の獄に系がれ，**世民**は就きて之を省す。**文靜**は曰く、

「天下は大亂す，**高**（漢の高祖）、**光**（後漢の光武帝）之才に非ざれば，定まる能わざる也。」

世民は曰く、

「安んぞ其の無きを知らん，但だ人は識らざる耳。我は來りて相い省するは，兒女子之情に非ず，君と大事を議せんと欲する也。計は將に安んぞ出でんとするや？」

文靜は曰く、

「今**主上**は南に江、淮を巡り，**李密**は東都を圍逼し，群盜は殆んど萬を以て數える。此之際に當たり，真主有りて驅駕し而して之を用いれば，天下を取るは掌を反すが如き耳。太原の百姓は皆な盜を避けて入城し，**文靜**は令と為ること數年，其の豪傑を知り，一旦收集すれば，十萬人を得るも可なり，尊公の將いる所之兵も復た且に數萬，一言口より出れば，誰か敢えて從わざらん！此を以て虚に乘りて關に入り，天下に號令すれば，半年を過ぎずして，帝業は成らん矣。」

世民は笑いて曰く、

「君の言は正に我が意に合わん。」
乃ち陰に賓客を部署し，**淵**は之を知らざる也。**世民**は**淵**の従わざるを恐れ，猶豫して之久しく，敢えて言わず。
●［李世民は裴寂を味方にする］**淵**は**裴寂**と舊有り，毎に相い與に宴語し，或は日夜を連ねる。**文静**は**寂**に因りて關說（説得）せんと欲し，乃ち**寂**を引いて**世民**と交わらしむ。**世民**は私錢數百萬を出して，龍山（北齊は龍山県を置き、太原郡に属す。開皇十年に晋陽という。この時点では復た龍山有らず、斌廉は開皇中に嘗て令吏たり、旧官を以て之を書すか）令の**高斌廉**をして**寂**と博せ使め，稍く以て之に輸し（博打の負け銭を支払う），**寂**は大いに喜び，是に由りて日々**世民**に従いて游び，情款益々狎れる。**世民**は乃ち其の謀を以て之に告げ，**寂**は許諾す。
●突厥［李世民は李淵に決起を促す］會々突厥は馬邑を寇し，**淵**は**高君雅**を遣わして兵を將いて馬邑太守の**王仁恭**と力を並せて之を拒む。**仁恭**、**君雅**は戰いて利あらず，（10-314p）**淵**は並せて罪を獲るを恐れ，甚だ之を憂う。**世民**は間に乘りて人を屏けて**淵**に說いて曰く、
「今**主上**は無道なり，百姓は困窮し，晉陽の城外は皆な戰場と為る。大人が若し小節を守れば，下に寇盜有り，上に嚴刑有り，危亡するは日無し。民心に順がって，義兵を興し，禍を轉じて福と為すに若かず，此れ天授之時也。」
淵は大いに驚きて曰く、
「汝は安んぞ此の言を為すを得るや，吾は今汝を執りて以て縣官に告げん！」
因りて紙筆を取り，表を為らんと欲す。**世民**は徐ろに曰く、
「**世民**は天の時人の事を觀ること此くの如し，故に敢えて言を發す。必ず執告せんと欲すれば，敢えて死を辭せず！」
淵は曰く、
「吾は豈に汝を告げるを忍びんや，汝は慎みて口より出す勿かれ！」
明くる日，**世民**は復た**淵**を說いて曰く、
「今盜賊は日々に繁く，天下に遍くす，大人は詔を受けて賊を討ち，賊は盡くす可き乎？之を要するに，終に罪を免かれず。且つ世人は皆な傳える、**李氏**は當に圖讖に應ずべしと，故に**李金才**（李渾の字、前巻大業十一年にあり）は罪無くして，一朝族滅せられる。大人は設し能く賊を盡くせば，則ち功高くして賞せられず，身は益々危きなり矣！唯だ昨日之言は，以て禍を救う可し，此れ萬全之策也，願わくは大人は疑う勿かれ！」
淵は乃た歎じて曰く、
「吾は一夕汝の言を思うに，亦た大いに理有り。今日家を破り軀を亡ぼすは亦た汝に由らん，家を化して國と為すも亦た汝に由らん矣！」
●［裴寂の念押し］是より先，**裴寂**は私に晉陽の宮人を以て**淵**に侍せしめ，**淵**は**寂**に従いて飲み，酒酣にして，**寂**は從容として言って曰く、
「二郎（李世民は次男）は陰に士馬を養い，大事を舉げんと欲す，正に**寂**が宮人を以て公に侍せしむるが為に，事は覺われ並せて誅せられんことを恐れる，此の急計を為す耳。衆情は已に協す，公の意は如何？」
淵は曰く、
「吾が兒は誠に此の謀有り，事已に此くの如くならば，當に復た奈何せん，正に須く之に從うべき耳。」
●［李淵は挙兵を決意］**帝**は**淵**が**王仁恭**と寇を禦ぐ能わざるを以て，使者を遣わして執りて江都に詣らしむ。**淵**は大いに懼れる。**世民**は**寂**等と復た**淵**を說いて曰く、

「今**主**は昏く國は亂れ，忠を盡くすも益無し。偏裨律を失い，而して罪は明公に及ぶ。事は已に迫れるかな矣，宜しく早く計を定めん。且つ晉陽の士馬は精強にして，宮監は巨萬を蓄積し，茲を以て事を擧げれば，何ぞ成る無きを患えん！代王は幼沖にして，關中の豪傑は並び起り，未だ附く所を知らず，公が若し鼓行し而して西し，撫し而して之を有てば，囊中之物を探るが如き耳。奈何ぞ單使之囚を受け，坐して夷滅を取らん乎！」

淵は之を然りとし，密に部勒し，將に發せんとす。會々**帝**は繼ぎて使者を遣わして驛を馳せて**淵**及び**仁恭**を赦し，舊任に復せ使め，**淵**の謀も亦た緩む。

●［**李淵は出兵を延期**］**淵**之河東討捕使（大業十一年）と為る也，大理司直の**夏侯端**を請いて副と為す。**端**は，**詳**（梁の武帝は兵を荊州雍州に起こし、夏侯詳は佐命なり）之孫也，善く占候し及び人を相し（人相を見る），**淵**に謂って曰く、

「今玉床は搖動し，**帝**の座は安からず（晉書の天文志に、北極五星の第二星は帝坐を主る。太乙の坐は最も赤明なる者を謂う。紫宮門内の六星を天牀と曰う。寢舍解息燕休を主る。又大角一星、攝提の間に在り、大角は天王帝坐なり），參墟（左傳に、參を晉星と為すと。故に晉陽を以て參墟と為す）歲を得（歲星が參に居るをいう），（10-315p）必ず真人有り其の分（分野）に起こらん，公に非ず而して誰ある乎！**主上**は猜忍し，尤も諸**李**を忌み，**金才**は既に死し，公は變通を思わざれば，必ず之が次に為らん矣。」

淵は心に之を然りと為す。晉陽を留守に及び，鷹揚府（司馬・兵倉の両司あり）の司馬の太原の**許世緒**は**淵**を說いて曰く、

「公姓は圖箓に在り，名は歌謠に應ず。五郡之兵を握（據×）り，四戰之地に當り，事を擧げれば則ち帝業は成る可し，端居すれば則ち亡ぶること踵を旋さず。唯だ公は之を圖るべし。」

行軍司鎧（行軍府司鎧參軍）の文水（太原郡に属す、山西省冀寧道文水県の東十里、現・呂梁市文水県）の**武士擭**、前太子左勳衛（開皇の制では東宮左右衛率府にも亦親勳翊三衛あり。煬帝は功曹となす）の**唐憲**、**憲**の弟の**儉**は皆な**淵**に舉兵を勸める。**儉**は**淵**に說いて曰く、

「明公は北に戎狄を招き，南に豪傑を收め，以て天下を取れば，此れ**湯**、**武**之舉也。」

淵は曰く、

「**湯**、**武**は敢えて擬する所に非ず，私に在りては則ち存を圖り，公（おおやけ）に在りては則ち亂を拯（すく）わん。卿は姑（しばら）く自重すべし，吾は將に之を思わんとす。」

憲は，**邕**（彊幹を持って高齊に事える）之孫也。時に**建成**、**元吉**は尚ほ河東（留めて家を守らしむ）に在り，故に**淵**は遷延して未だ發せず。

●［**劉文靜は出発を催促**］**劉文靜**は**裴寂**に謂って曰く、

「先ず發すれば人を制し，後に發すれば人に制せらる。何ぞ早く唐公に勸めて擧兵せず，而して推遷して已まず！且つ公は宮監と為り，而して宮人を以て客に侍せしむ，公が死するは爾る可し，何ぞ唐公を誤まる也！」

寂は甚だ懼れ，屢々**淵**に起兵を趣す。**淵**は乃ち**文靜**をして詐りて敕書を為ら使め，太原、西河、雁門、馬邑の民の年二十已上五十已下を發して悉く兵と為し，歲暮を期し涿郡に集まり，高麗を擊たんとし，是に由り人情は恟恟として，亂を思う者は益々衆し。

●［**李世民は兵募集**］**劉武周**が汾陽宮に據るに及び，**世民**は**淵**に言って曰く、

「大人は留守と為り，而して盜賊は離宮に竊據す，早く大計を建てざれば，禍は今至らん矣！」

淵は乃ち將佐を集めて之に謂って曰く、

「**武周**は汾陽宮に據り，吾輩は制する能わず，罪は族滅に當り，之を若何せん？」
王威等は皆な懼れ，再拜して計を請う。**淵**は曰く、
「朝廷は兵を用い，動止は皆な節度を稟けしむ。今賊は數百里の內に在り，江都は三千里の外に在り，加えるに道路の險要なるを以て，復た他賊有りて之に據る。城に嬰り柱に膠する之兵を以て，巨猾の豕突之勢いに當たり，必ず全くせず矣。進退は維れ谷(きわ)まれり，何を為し而して可ならん？」
威等は皆な曰く、
「公、地は親賢を兼ね，國の休戚を同じくす，若し奏報を俟てば，豈に事機に及ばんや。要は賊を平らげるに在り，之を專(もっぱら)にして可也。」
淵は陽(あらわ)に已むを得ず而して之に從う者の若くして，曰く、
「然らば則ち先ず當に兵を集めるべし。」
乃ち**世民**に命じて**劉文靜**、**長孫順德**、**劉弘基**等と各々募兵し，遠近は赴き集まり，旬日の間に萬人に近し，仍ほ密に遣使して**建成**、**元吉**を河東より，**柴紹**を長安より召す。
●突厥［突厥介入を巧みに撃退］**王威**、**高君雅**は兵が大いに集まるを見，**淵**が異志有るを疑い，**武士擭**に謂って曰く、
「**順德**、**弘基**は皆な背征（二人は役を避けて亡命す）の三侍，犯す所死に當る，安んぞ兵に將たるを得ん！」
收めて之を按ぜんと欲す。**(10-316p) 士擭**は曰く、
「二人は皆に唐公の客なり，若し爾せば，必ず大いに紛紜を致さん。」
威等は乃ち止む。留守の司兵の**田德平**は**威**等に勸めて募人之狀を按ぜしめんと欲し，**士擭**は曰く、
「討捕之兵は，悉く唐公に隸し，**威**、**君雅**は但だ寄坐する耳，彼は何ぞ能く為さん！」
德平も亦た止む。
晉陽の鄉長の**劉世龍**は密に**淵**に告げて云う、
「**威**、**君雅**は晉祠に雨を祈るに因りて，不利を為さんと欲す。」
五月，癸亥（59-46+1=１４日）夜，**淵**は**世民**をして兵を晉陽宮城之外に伏せしむ。甲子（60-46+1=１５日）旦，**淵**は**威**、**君雅**と共に坐して事を視，**劉文靜**をして開陽府の司馬の胙城の**劉政會**を引き入りて庭中に立た使め，密狀有りと稱す。**淵**は**威**等に目くばせして狀を取り之を視，**政會**には與えずして，曰く、
「告げる所は乃ち副留守（引留守×）の事，唯だ唐公のみ之を視るを得る。」
淵は陽(いつわ)り驚いて曰く、
「豈に是れ有らん邪！」
其の狀を視，乃ち云う、
「**威**、**君雅**は潛に突厥を引いて入寇せしむ。」
君雅は袂を攘いて大いに詬(ののし)りて曰く、
「此れ乃ち反する者は我を殺さんと欲する耳！」
時に**世民**は已に兵を佈き衢路を塞ぎ，**文靜**は因りて**劉弘基**、**長孫順德**等と共に**威**、**君雅**を執りて獄に繫ぐ。丙寅（2+60-46+1=１７日），突厥の數萬の衆は晉陽を寇し，輕騎は外郭の北門に入り，其の東門に出る。**淵**は**裴寂**等に命じて兵を勒して備えを為さしめ，而して悉く諸城の門を開き，突厥は測る能わず，敢えて進む莫し。衆は以為らく**威**、**君雅**が實に之を召す也，**淵**は是に於いて**威**、**君雅**を斬り以て徇う。**淵**の部將の**王康達**は千餘人を將いて出で戰い，皆な死し，城中は恟懼す。**淵**は夜軍を遣わして潛に城を出，旦則ち旗を張り鼓を鳴らし他道より來たらしめ，援軍の者の如くす。突厥は終に之を疑い，城外に留まるこ

と二日，大掠し而して去る。

●［東都攻防戦］**煬帝**は監門將軍の涇陽の**寵玉**、虎賁郎將の**霍世擧**に命じて關內の兵を將いて東都を援けしむ。**柴孝和**は**李密**に說いて曰く、

「秦の地は山川之固めあり，秦、漢の憑りて以て王業を成す所の者也。今**翟司徒**をして洛口を守り，**裴柱國**をして回洛を守ら使むに若かず，明公は自ら精銳を簡びて西して長安を襲うべし。既に京邑に克てば，業固く兵強く，然る後に東に向い以て平河、洛を平らげば，檄を傳えて而して天下は定まらん矣。方今隋は其の鹿を失い，豪傑は競い逐い，早く之を為さざれば，必ず我に先んずる者有り，悔いても及ぶ無し矣！」

密は曰く、

「此れ誠に上策なり，吾も亦た之を思うこと久しき矣。但だ昏主は尚ほ存し，從兵は猶ほ衆く，我が所部は皆な山東の人なり，洛陽未だ下らざるを見，誰か肯えて我に從いて西に入らん！諸將は群盜に出ず，之を留めば各々雌雄を競わん，此くの如くならば，則ち大業は隳(くづ)れん矣。」

孝和は曰く、

「然らば則ち大軍は既に未だ西上す可からず，僕は請う間行して釁を觀ん。」

密は之を許す。**孝和**は數十騎と陝縣に至り，**(10-317p)** 山賊の之に歸する者は萬餘人。時に**密**の兵鋒は甚だ銳く，每に苑に入り，隋兵と連戰す。會々**密**は流矢の中たる所と為り，營中に臥す。**(六月)**丁丑（23-16+1=8 日），越王の**侗**は**段達**をして**龐玉**等と夜兵を出さ使め，回洛倉の西北に陳す。**密**は**裴會基**と出で戰い，**達**等は大いに之を破り，殺傷は太半，**密**は乃ち回洛を棄て，洛口に奔る。**寵玉**、**霍世擧**は偃師に軍し，**柴孝和**之衆は**密**の退くを聞き，各々散り去る。**孝和**の輕騎は**密**に歸し，**楊德方**、**鄭德韜**は皆な死す。**密**は**鄭頠**を以て左司馬と為し，滎陽の**鄭乾象**を右司馬と為す。

●［李智雲は殺される］**李建成**、**李元吉**は其の弟の**智雲**を河東に棄て而して去り，吏は**智雲**を執りて長安に送り，之を殺す。**建成**、**元吉**は**柴紹**に道に遇い，之と偕(ともな)に行く。

令和 6 年 3 月 10 日　　翻訳開始　　11885 文字
令和 6 年 3 月 20 日　　翻訳終了　　24418 文字